

抗凝固薬・抗血小板薬 休薬期間の目安

中国中央病院薬剤部2019年8月改訂
薬事委員会承認2018年8月

一般名	商品名 ※下線部:採用薬	低危険手技 (生検等)	高危険手技 (腹部手術等)	消化器内視鏡診療			
				<単剤> 生検・出血 低危険度	<単剤> 出血高危険度	<2剤・3剤併用> 出血高危険度	
抗凝固薬	ワルファリンカリウム	<u>ワルファリン</u> ワルファリンK	3~4日前(大手術3~5日前) 高危険手技は必ずINR測定	休薬なし (治療域内確認)	ヘパリン置換		
	ダビガトランエテキシラート	<u>プラザキサ</u>	24時間前 (~2日前 出血の危険が高い場合、完全止血を要する大手術時)	休薬なし (DOAC: 血中濃度の ピークを 避けることが 望ましい)	ヘパリン置換		
	リバーロキサバン	<u>イグザレルト</u>	24時間前		24時間前 リスクによりヘパリン置換		
	エドキサバン	<u>リクシアナ</u>	24時間前		24時間前 【メーカー回答】ヘパリン置換を考慮		
	アピキサバン	<u>エリキュース</u>	24時間前 (~48時間 出血に関して中~高リスク又は臨床的に重要な出血の恐れのある手術・侵襲的手技時)		24時間前(~48時間 出血に関して中~高リスク又は臨床的に重要な出血の恐れのある手術・侵襲的手技時) 【メーカー回答】リスクに応じて代替療法(ヘパリン等)を考慮		
抗血小板薬	チクロピジン	<u>パナルジン</u> チクロピジン マイトジン	5日前 (アスピリン併用時は7日前)	10~14日前	休薬なし	5~7日休薬 アスピリン併用あり →5~7日休薬	
	クロピドグレル (配合剤を含む)	<u>クロピドグレル</u> プラビックス コンプラビン	5日前	7~14日前	休薬なし	(血栓塞栓症リスクが高い場合 アスピリン置換 Or シロスタゾール置換)	
	プラスグレル 【メーカー回答】	<u>エフィエント</u>					
	チカグレロル 【メーカー回答】	ブリリント	主治医の判断 (血小板凝集抑制が問題となる場合は5日以上前に休薬) ※作用は可逆的	5日以上前	主治医の判断 (出血のリスク、有益性を考慮)		
	シロスタゾール	<u>シロスタゾール</u> プレタール、シロシナミン、 コートリズム、シロスレット、 プレトモール、ホルダゾール	2日前	3日前	休薬なし	1日休薬	休薬なし
	アスピリン (アスピリン配合剤を含む)	<u>バイアスピリン</u> アスピリン、バファリン81、 ゼンアスピリン、バツサミン、 アスファネート、ニトギス、 ファモター、 タケルダ、コンプラビン	3日前 (チクロピジン併用時は 7日前)	7日前	休薬なし	休薬なし (血栓塞栓症の発症リスクが低い 場合 3~5日前)	休薬なし Or シロスタゾール置換
	イコサペント酸エチル (EPA製剤)	<u>イコサペント酸エチル</u> 、エパデールS、 エパキヤップ、エパラ・エパロース、ソルミラン、 ナサチーム、メルブラール		7日前 (手術医療の実践ガイドライン: 日本手術医学会)	休薬なし	1日休薬	
	サルポグレラート	<u>アンプラーグ</u> 、サルポグレラート	1日前				
	ベラプロストナトリウム	<u>ベラプロストNa</u> 、 <u>ベラサスLA</u> 、プロサイリン、ドルナー、ケアロードLA					
	リマプロストアルファデクス	<u>リマプロストアルファデクス</u> 、プロレナール、オパルモン					
ジピリダモール	<u>ペルサンチン</u> 、ヨウリダモール						
ジラゼブ	<u>ジラゼブ</u> 、コメリアン						
トラピジル	ロコルナール、トラピジル						
イブジラスト	ケタス						
イフェンプロジル酒石酸塩	セロクラール、アポノール、イフェンプロジル						
オメガ-3脂肪酸エチル	<u>ロトリガ</u>	【メーカー回答】添付文書記載なし。EPA製剤の休薬に準ずれば、手術7日前(手術医療の実践ガイドライン:日本手術医学会)、内視鏡出血低危険度休薬なし、出血高危険度1日休薬。					

ガイドラインには記載されていないが、術前休薬(2~3日前)を考慮する薬剤(消化器内視鏡検査・治療を除く)

<注意> 当院の採用薬に変更があった場合は一覧表の更新を行いますが、その他については年に1回のみ更新となりますので、その間の後発品等の追加・削除などの変更については最新の情報でない場合がありますので、ご注意ください。

<参考資料>
■各種薬剤添付文書
■ハイリスク薬チェックシート第2版 じほう
■各製薬会社回答

<参考ガイドライン>
■抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン2012:日本消化器内視鏡学会、追補2017
■脳卒中治療ガイドライン2009:日本脳卒中ガイドライン委員会
■循環器疾患における抗凝固・抗血小板療法に関するガイドライン2008
■心房細動治療(薬物)ガイドライン2008年改訂版:日本循環器学会、日本心臓病学会、日本心電学会、日本不整脈学会